



健康的な建築環境の実現における天然資源の有益性

総合理工学部 助教 NGUYEN-TRAN Yen-Khang

建築デザイン学科のカン研究室は、設立以来、松江・出雲地域を中心に、住環境を向上させるための日照や通風などといった自然環境の特徴に注目してきた。特に、山陰の一般市民や住宅メーカーが軽視しがちな天然資源の恩恵に対する意識を向上させるための手法を開発するため、調査、シミュレーション、分析などのデータ収集に努めている。本学では、昼光調査・シミュレーションを始めとして、気候変動への適応と省エネルギーを目指したより良い解決策を設計するために、昼光の二面性を学ぶ学習支援や学生による設計ワークショップの機会を提供している。

以上のような研究やワークショップを通じて、学生や若い社会人、そして住民が、室内環境を調整する上で天然資源をよく理解することの重要性を自ら認識し、再生可能エネルギーの利用やエネルギー消費の削減に向けてよりよい姿勢を持つようになることを望んでいる。また、その重要性を理解し、知識を応用できる住宅分野の実務者が社会に増えることを願っている。さらに、「さくらサイエンス交流プログラム」のように、一般市民が学べるような成果を発信するために、大学や海外の研究機関の学生や研究者からなる国際的なグループとのコラボレーションワークショップを定期的で開催している。

